（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援エフ　　小笹教室			
○保護者評価実施期間	2026年　1月　23日		～	2026年　1月　31日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	41	（回答者数）	4
○従業者評価実施期間	2026年　1月　23日		～	2026年　1月　31日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　2月　1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援についての職員間の意見交換について	支援についての意見交換を行う際に、職員全員が意見を出しやすいようにどんな意見も否定をせず、全員で検討している。	全員が建設的な意見を出すことが出来るように日々の支援や研修の機会を通して職員の能力向上を図っていく。
2	支援の統一について	対応する職員がそれぞれの強みを生かしながらも生徒さん1人ひとりに対しての支援のベースは全員が共通認識をもって支援にあたることができている。そのためにも、ミーティングで意見を出し合いながら職員中心で話し合う時間を取っている。	職歴や経験値の違いによらず、全員が一定のレベルを担保することが出来るように職員教育をより一層徹底していきたい。
3	リスク管理について	支援中や送迎中などにイレギュラーやトラブルが起こった際の対応方法について職員全体で確認することができている。ミーティング時などに事案の振り返り、対応方法の確認を行い、必要であれば、対応について管理者主体ではなく、職員主体で考える時間を設けている。	トラブルが起こった際の報告先として複数提示し、優先順位をより明確に共有し、何があっても慌てずに対応できるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	災害時の対応について	昨年度の課題として感染症対応についても課題として挙げたが、今年度は実践の機会がいくつかあったため、迅速に対応することが出来た。支援の提供時間中の災害については引き続き訓練は行えているものの、実践の機会に乏しいため、不安が残る。	定期的な訓練以外にも月や週単位で対応について振り返りを検討する。また、近年の気象状況なども考慮して季節ごとに対応を検討が必要なものも考えていきたい。（例：夏はゲリラ豪雨や雷など）
2	他事業所との連携について	担当者会議などの定められた機会しか他事業所との交流の機会がない状態となっている。その反面、担当者会議ではエフの特色や支援方法を踏まえた上での様子の変化などをわかりやすく共有することを意識している。	あくまで利用者とその保護者様の個人情報保護を前提として、より一体感を持った支援をすることが出来るように他事業所との交流の機会も検討が必要となるかもしれない。
3	保護者様同士の交流について	現状では父母会等は行っておらず、保護者様同士の交流をする場を提供はしていない。稀に他事業所との比較で保護者様から父母会などはないのかお問い合わせされることはあるものの、現状では、開催を望む要は声は聞かれていない。	要望があれば、当該の方のご意見をお伺いし、適切な対応をしていきたい。